スリランカのムライティブ県で、帰還民たちは支給されたトタン板とヤシの葉で葺いた家で生活している。ただし、水源が近くにないため遠方から汲んできた水を溜めて使用している。

内戦が激しかったムライティブ県ではヒンドゥ寺院も壊れたまま、帰還した人々はそれぞれの仮設の家をとりあえず建て、生活を再建することに忙しい。

帰還民たちの子供ためにできた仮設の保育所だが、近くに井戸がないため、子供たちが手を洗ったりするための井戸が必要と保母たちが訴えており、近隣の家族と共同使用できる井戸を作る予定。

帰還民たちは村長が作った共同井戸に水を汲みに行っている。一日に 6－7 回水を汲みに行かねばならないが、そこまで 1 km以上離れていて大変だと、当団体スタッフに訴えている。

この帰還民の女性も現在使える井戸が遠いため炊事や洗濯に時間がかかると訴えている。